

地域企業と自治体が一体となって「健幸」課題を解決する新しい官民連携モデル  
三島市・三島商工会議所と「健幸まちづくり連携協定」を締結  
「地域健幸ビジネス分科会」による第1弾プロジェクトを三島市でスタート

2020年3月27日

一般社団法人スマートウェルネスコミュニティ協議会

このたび、産学官が連携して健康づくりを推進する一般社団法人スマートウェルネスコミュニティ協議会（東京都千代田区神田神保町2-13、理事長：大内 尉義、以下「SWC協議会」）では、地域の「健幸」<sup>※1</sup>課題解決を目的とする官民連携の「地域健幸ビジネス分科会」（座長：久住 時男・新潟県見附市長）を立ち上げ、その第1弾となるプロジェクトを三島市（市長：豊岡 武士）で実施。これにあたり、本日、三島市および三島商工会議所（静岡県三島市一番町2-29、会頭：石渡 浩二）と「健幸まちづくり連携協定」を締結し、市民の健康づくりに向けた取り組みを4月1日よりスタートします。なお、地域企業と自治体が一体となって「健幸」課題を横断的に解決する今回の取り組みは、SWC協議会では初となる試みであり、今後の新しい官民連携モデルとなります。

三島市は、「健幸」をまちづくりの基本に据えた新しい都市モデルの構築を目指す首長の集まり「Smart Wellness City首長研究会」<sup>※2</sup>（以下「SWC首長研究会」）に2011年に加盟。以来、あらゆる分野に健康の視点を取り入れ、健やかで幸せなまちを目指す「スマートウェルネスみしま」に取り組んできました。その後、SWC協議会にも初期メンバーとして加盟。高齢化の進展に伴う医療費や介護給付費の増大を抑えるため、成人の7割を占めると見られる健康無関心層へのアプローチをどうすべきか、といった三島市が抱える課題解決に向けて、SWC協議会の加盟企業とともに具体策を検討してきました。

このようなことから、SWC協議会では今回「地域健幸ビジネス分科会」の始動にあたり、「健幸」課題が明確であり、取り組み準備が整っている三島市で実施することが最適であると考え、今回の協定に至りました。プロジェクト推進にあたっては、SWC協議会のメンバーで、市内で事業活動を行っている「地域健幸ビジネス分科会」参画の4社<sup>※3</sup>—アニコムホールディングス株式会社（東京都新宿区西新宿8-17-1、社長：小森 伸昭）、株式会社カーブスジャパン（東京都港区芝浦3-9-1、代表・増本 岳）、株式会社タニタヘルスリンク（東京都文京区後楽1-4-14、社長・丹羽 隆史、以下「THL」）、株式会社白寿生科学研究所（東京都渋谷区富ヶ谷1-37-5、社長：原 昭邦）と三島市で構成する「三島ワーキンググループ」<sup>※4</sup>が母体となります。参画企業は、各

社が市内で展開する拠点やサービスを相互に連携。エビデンスに基づき成果があげられる指標の設定やスキームの構築を行ったうえで、さまざまな接点を通じて健康無関心層を取り込み、市民の生活習慣病予防・改善を図っていきます。

具体的には、健康無関心層の行動変容を促すために、楽しみながら健康づくりに取り組める施策などを実施します。アニコムホールディングスグループでは、同社が展開するペット保険事業のノウハウを生かし、愛犬の体重・体脂肪測定会や健康相談教室を開催することで、飼い主を健康イベントに誘引。愛犬の健康管理を通じて飼い主自身の健康意識を醸成し、愛犬との散歩を家族で一緒に楽しめる健康的なからだづくりをサポートします。白寿生科学研究所では、市内に展開する体験型ショールーム「ハクジュプラザ」（1店舗）の会員に向けて、三島市が主催する健康イベントや運動教室への参加を促します。カーブスジャパンでは「ハクジュプラザ」とともに、市内に2店舗を展開する運動施設「カーブス」において、健康情報を身近な人に伝える「健幸アンバサダー」（SWC協議会認定のボランティア）として店舗スタッフや会員を養成。各店の会員が持つネットワークを通じ、健康づくりへの関心度が低い家族や知人に向けて、健康意識を高める働きかけを行います。

一方、健康情報・体験のタッチポイントも拡大させます。三島市が2015年からTHLと取り組んでいる市民向け健康事業「みしまタニタ健康くらぶ」（会員制）<sup>※5</sup>の拠点を拡充。市内に設置している体組成計や血圧計の計測スポット（現在4カ所）、活動量計を使った計測データの送信スポット（同16カ所）を増やすため、駅直結の「ハクジュプラザ」の立地特性を生かし、同店を計測・送信スポットとして活用。気軽に計測やデータ送信ができる環境を整えます。このほか、三島市と本分科会参画4社による健康イベントを随時開催。これらを通じて、三島市における健康づくりのプラットフォームである「みしまタニタ健康くらぶ」への市民の加入を後押しします。

三島商工会議所との連携では、会員企業の健康経営推進をサポート。健康機器の貸し出しや企業対抗の歩数イベントを開催するなど、従業員が継続して健康づくりに取り組みやすい環境づくりから、健康経営優良法人認定取得に向けたサポートまで幅広く取り組みます。また、「みしまタニタ健康くらぶ」で実施している健康行動に対して付与されるポイントプログラムを活用し、地元商店で利用できる商品券とポイント交換できるようにするなど、市街地活性化にも貢献していきます。

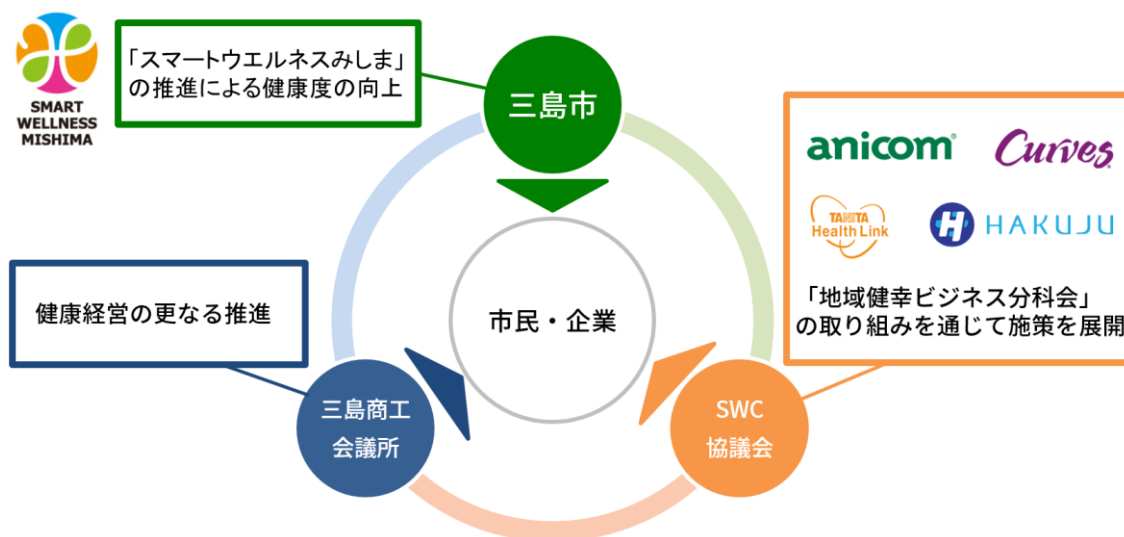
SWC協議会では、三島市・三島商工会議所とともに今回の取り組みを通じて、三島市が掲げる「スマートウェルネスみしま」の実現を目指します。同時に、本連携に関わる全ての関係者にとって持続可能な取り組みとなる官民連携モデルを構築。効果をあげた取り組みはSWC協議会で共有し、全国のSWC首長研究会の参加自治体に発信していくとともに、今回の取り組みを自治体ごとの「健幸」課題に合わせてカスタマイズしながら、今後全国に展開していく予定です。

- ※1：個々人が健康かつ生きがいをもち、安心安全で豊かな生活を営むことができること。
- ※2：SWC首長研究会は、「健幸」をまちづくりの基本に据えた新しい都市モデル「Smart Wellness City」の構築を目指す首長の集まり。事務局は国立大学法人筑波大学久野研究室。現在、43都道府県105市区町村(2020年2月時点)が参加し、「Smart Wellness City」の実現に向けて、毎年2回の研究会を定期的に開催しています。
- ※3：五十音順。
- ※4：ワーキンググループ長は、株式会社タニタヘルスリンク代表取締役社長 丹羽隆史。
- ※5：IoT対応の体組成計・血圧計・活動量計を使った計測と、管理栄養士や健康運動指導士といった専門職によるヒューマンサービスを組み合わせた取り組みで、会員数は現在までにのべ2000人にのぼっています。

## 【一般社団法人スマートウェルネスコミュニティ協議会について】

産官学の幅広い叡智を集めて「健幸」課題を解決する団体として2015年に設立。SWC首長研究会とは車の両輪のような関係であり、健康・医療といった従来型のアプローチにとどまらず、まちづくり、スポーツ振興など多様なテーマに目を向け様々な施策を連携して取り組んでいます。SWC協議会は、①インセンティブ制度・ビジネス分科会、②健幸アンバサダー・人材育成分科会、③AI・情報銀行データ利活用分科会、④スポーツ・レガシー分科会、⑤まちづくり分科会の五つのテーマで活動。それぞれの分科会は、SWC首長研究会の参加自治体で取り組みを実施し、その成果をSWC首長研究会で報告・共有しています。このたび立ち上げた6番目の分科会「地域健幸ビジネス分科会」では、「健幸」課題が顕在化し、取り組み準備が整っている三島市から取り組みをスタート。今後、準備が整った自治体から順次、実施自治体と参画企業らで構成する「ワーキンググループ」を立ち上げ、大都市と地方における「健幸格差」を解消する取り組みを全国で展開していきます。

## 【取り組みイメージ】



三島市・三島商工会議所・SWC協議会が一体となって地域の「健幸」課題を解決

### 本件に関するお問い合わせ先

一般社団法人スマートウェルネスコミュニティ協議会  
 事務局（株式会社タニタヘルスリンク内）：山本、松林  
 代表電話：03（5904）8008  
 携帯電話：080（8433）8530（山本）  
 e-mail：koyo.yamamoto.p@tanita.co.jp  
 携帯電話：070（4472）5565（松林）  
 e-mail：yoko.matsubayashi@tanita.co.jp

本資料に記載されている情報は発表日現在のものです。このため、時間の経過あるいは後発的なさまざまな事象によって、内容が予告なしに変更される可能性があります。あらかじめご了承ください。